

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

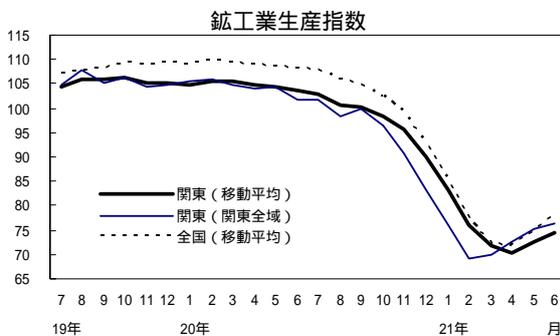
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	緩やかに悪化	下げ止まりつつある	
鉱工業生産	下げ止まりつつある	緩やかに持ち直している	
個人消費	弱い動き	持ち直しの動き	
雇用情勢	極めて急速に悪化しつつある	極めて急速に悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、普通乗用車及び小型乗用車を中心に上昇している。化学は、ポリエチレン及びフェノールなどで上昇している。一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置などで減少しているものの、6月は半導体製造装置を中心に上昇している。電気機械は、医用X線装置や開閉制御装置などで減少しているものの、6月は自動車用電気照明器具を中心に上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

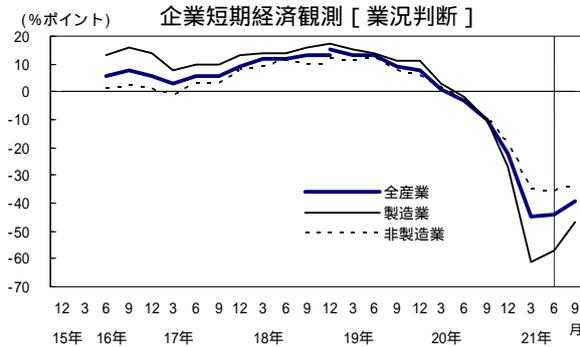
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	15.2	40.2	7.9	1.7	32.7
化学	13.4	5.9			
一般機械	13.2	32.4	15.2	15.6	6.5
電気機械	7.8	17.3	1.2	6.3	10.7
食料品・たばこ	7.1	2.5			
鉱工業	100.0	20.4	4.0	3.3	5.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

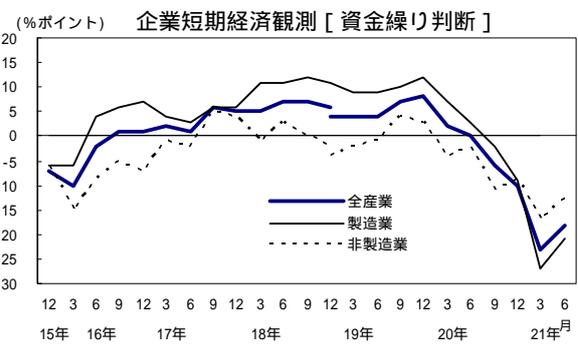
2. 4~6月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

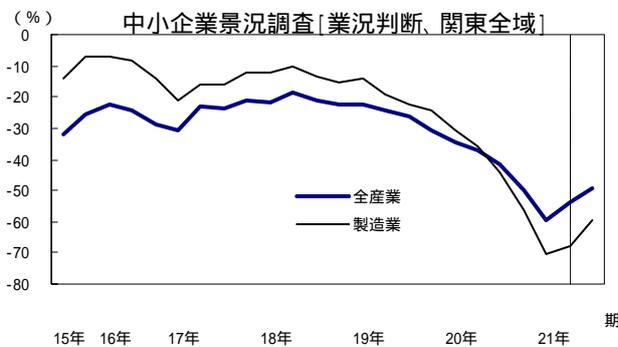
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

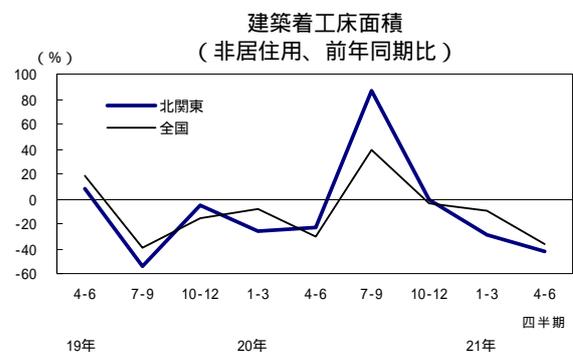
「取引先の生産量、販売高が増加しつつあるが、情報化投資はまだまだ手控えており、しばらくこの状態が続く(その他サービス業[情報サービス])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	32.9	26.6 (5.8)
製造業	31.4	26.7 (4.5)
非製造業	34.6	26.5 (7.3)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

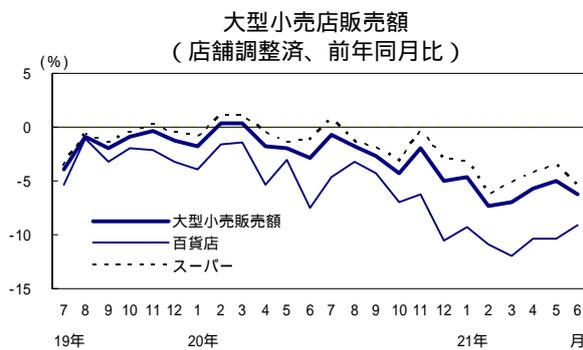
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、晴天続きであったことから紫外線対策と母の日ギフトとして、スカーフやストールに動きがみられたものの、衣料品及び身の回り品全体では不振であったことから、前年を下回った。5月は、母の日ギフトをセール品で済ませる傾向がみられるなど、身の回り品を中心に振るわなかったことから、前年を下回った。6月は、前倒しセールが好調であったが、高額品は苦戦し、衣料品及び身の回り品全体では低調であったことから、前年を下回った。

スーパーは、エコポイント付与開始以降、家電の一部に動きがみられたが、衣料品及び身の回り品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「大型店の早期バーゲンの影響で商店街の売上は厳しい(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



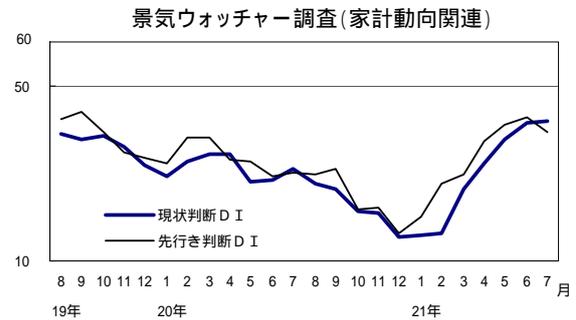
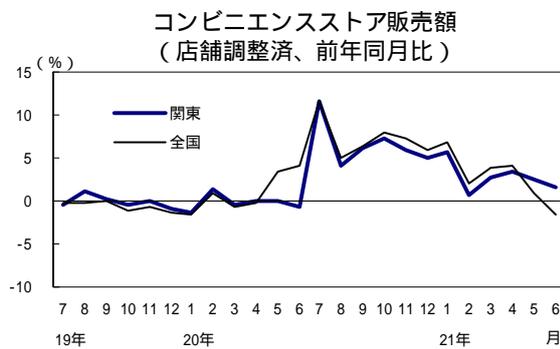
(前年同月比、%)

	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	1.7	3.9	6.2	5.7
百貨店	4.1	8.2	10.6	9.9
スーパー	0.9	2.3	4.8	4.4
乗用車	0.8	13.2	23.9	17.9
景気ウォッチャー	28.3	19.2	19.6	37.2

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。21年4-6月期は速報値。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

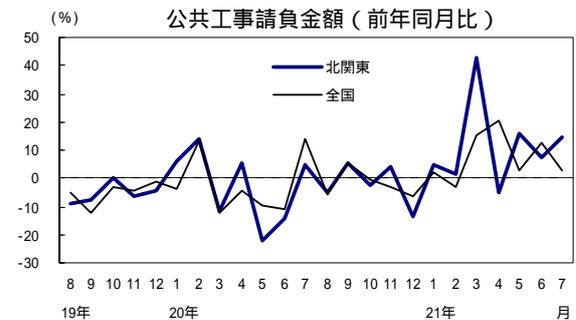
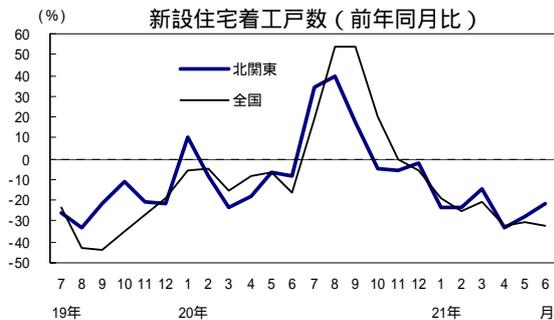
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

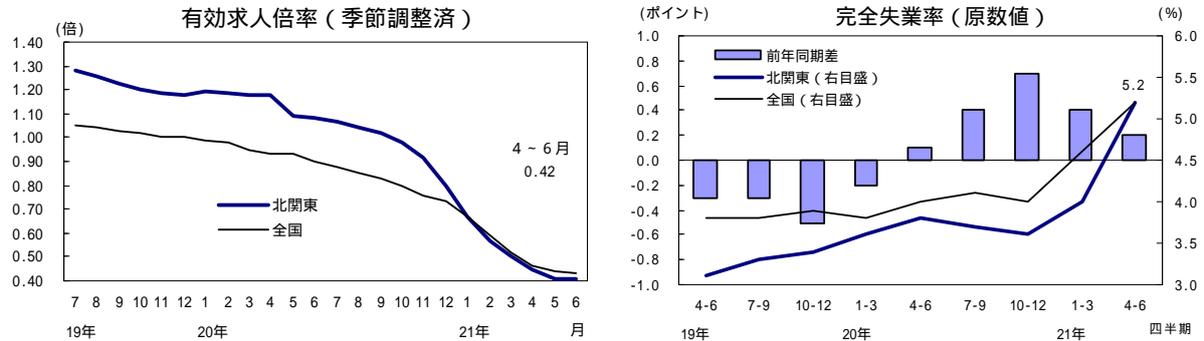


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連 (現状)]

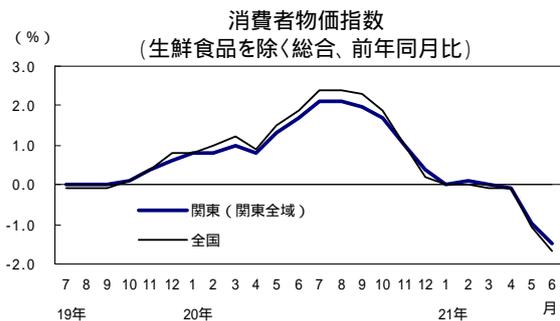
「企業側の求人、採用に対する意欲が依然低い。中小企業を中心として、従業員の採用について前向きな様子がかげえない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数 (前年比)	213 10.9	234 19.4	276 32.1	231 6.9	63 1.6
負債総額 (前年比)	950 8.6	1,002 18.0	1,092 2.6	1,159 93.0	199 42.7



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・仕事が大きく戻る気配はないが、新たな問い合わせは増えてきており、自動車関連では試作も徐々に動き出してきた。また、工場の操業も、臨時休業を取りやめる会社が出てきている(一般機械器具製造業)。

<先行き>

・相変わらず安値受注の状態が続いている、工期延長による入金が遅れが資金繰りを大変にしている。金融機関からの追加融資を受けられないのも影響が大きい(建設業)。

